

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

安全・安心・納得・満足の学校生活。「大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！」

- 学びの充実で生徒の夢実現！目標達成できる教育実践をめざす学校
- 丁寧な規律指導で規範意識を養い、寄り添う心で人間教育を大切にする学校
- 他者と自分を大切にし、自己有用感をもって社会貢献できる人材を育成する学校。
  - ・ 普通科…多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校
  - ・ 体育科…競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の向上

(1) 生徒が「何を学び」「何を理解し」「何ができるようになったのか」を自覚し、説明できる授業。

- ア TT、少人数展開、習熟度別、ICT活用などによる生徒が満足できる授業を展開する。
- イ 始業前学習や短期集中講座の実施により、基礎学力の定着をめざした学習を継続的にサポートする。

(2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。

- ア 校内研究授業週間をベースに、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。
- イ 生徒対象の授業評価、保護者の授業参観時の評価を授業力向上に繋げる。

※ 卒業時アンケートにおける「3年間勉学に一生懸命取り組めた。」の肯定率を令和4年度には75%以上とする。

(R1:63.4%、H30:62.8%、H29:72.0%)

※ 卒業時アンケートにおいて「大塚で3年間学んで学力面で伸びた。」の肯定率を令和4年度には70%以上とする。(R1:57.1%、H30:54.9%、H29:66.0%)

## 2 志や夢のはぐくみ

(1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能（的確な情報提供・進路HR・進路相談）の充実を図る。

※ 進路アンケートにおいて「第1希望をかなえることができた。」の肯定率を令和4年度には90%以上とする。(R1:82.2%、H30:87.9%、H29:75.0%)

(2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。

(3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。

※ 大学（4年制）進学率を令和4年度には70%とする。(R1:53.0%、H30:55.5%、H29:59.2%)

※ 大学入学共通テストの受験者率を令和4年度には15%とする。(R1:12.0%、H30:14.4%、H29:19.6%)

※ 就職内定率を令和4年度も100%を維持する。(R1:100%、H30:100%、H29:100%)

## 3 豊かな心と社会性の育成

(1) 「あたりまえのこと（挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守）をあたりまえに！」を合言葉に、丁寧な指導で規律規範の確立、納得の生徒指導に努める。

ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持・発展させる。

※ 遅刻総数を令和4年度には600件以内とする。(R1:678件、H30:843件、H29:544件)

イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安全で安心な学校づくりを推進する。

ウ 生徒状況の把握と保護者との緊密な連携を図るため、保護者との三者面談100%実施をめざす。

エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用する。

オ 学校行事（大塚祭）の充実及び部活動の充実を図る。

※ 普通科生徒の部活動加入率を令和4年度には70%以上とする。(R1:66.3%、H30:64.0%、H29:61.3%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格の育成をめざす。

## 4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進（開かれた学校づくり）

(1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。

ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。

イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。

(2) オリンピック出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。

ア スポーツ講演会の開催

イ スーパーインストラクター招聘事業

(3) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。

(4) 進展する少子化に対応するための魅力ある学校づくりを推進する。

## 5 次代を担う人材の育成

(1) 若手教員の育成とミドルリーダーの養成を図る。

ア ミドルリーダーが講師となり、自身の成長につなげるとともに、教職経験の少ない教員を対象とした校内研修を実施し、人材を育成する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【授業】</b>            (生徒)「授業はわかりやすく楽しい」肯定率 <b>45.2%</b> (以下肯定率)            (教員)「生徒のレベルに応じたわかりやすい授業に努めている」 <b>89.8%</b>            ☆ 教員の授業工夫が <b>11.6%</b>上昇し、それに伴う形で、生徒の肯定率が昨年度 <b>11Pt</b> に続き <b>4Pt</b> 上昇した。参加体験型の学習や <b>ICT</b> 機器の活用など一層の改善策の検討が必要である。</p> <p><b>【生徒指導】</b>            (生徒)「学校生活についての先生の指導には納得できる」 <b>57.1%</b>            (保護者)「学校の生徒指導の方針に共感できる」 <b>65.1%</b>            (教員)「一人一人生徒に向き合った生徒指導を行っている」 <b>77.6%</b>            ☆ 生徒の生活背景や保護者の想いを踏まえた生徒指導に努める必要がある。</p> <p><b>【進路指導】</b>            (生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」 <b>79.1%</b>            (保護者)「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 <b>73.0%</b>            (教員)「興味・関心、適性に応じた進路選択ができるようにきめ細かい指導を行っている」 <b>75.0%</b>            ☆ 今後とも一層の指導の充実を図り、3年間の指導の流れを示し、より多くの生徒・保護者が進路指導に関する認識を高め、生徒の進路実現に繋げる必要がある。</p> <p><b>【学校運営】</b>            (教員)「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」 <b>73.5%</b>            (教員)「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」 <b>42.9%</b>            (教員)「校務分掌などの分担がなされ、教職員が意欲的に取り組む環境にある」 <b>46.9%</b>            ☆ 学校運営等についての考え方をもとにリーダーシップを示し、教員が意欲的に取り組める校内体制の整備に取り組む必要がある。</p>	<p>第1回            &lt;開催日時&gt; 令和2年7月3日(書面開催)            [連絡事項についての質問や意見]            ① 令和2年度 学校経営計画について            目標を明確に設定されています。今後達成に向けた取組みから見えた教訓を、共有させていただきたい。            &lt;回答&gt;            目標の達成に向けて取組みを進め、第2回、第3回の運営協議会で報告する。</p> <p>② 分掌・体育科からの連絡について            9月にマ스ゲーム発表、男子：組み体操(予定)とありますが、具体的に、どのような形で計画されているか。可能であれば、教えていただきたい。            &lt;回答&gt;            新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、府立学校における新型コロナウイルス感染症対応マニュアルに基づいた実施計画検討中</p> <p>第2回            &lt;開催日時&gt; 令和2年11月16日(月) 11時00分～12時00分            [委員の方からの意見等]            ○意見…振り返りシートを見ると、各教科の先生が次の取組みを考えている。先生の頑張りが見える。PDCAサイクルが回りだしたと感じる。            ○意見…アンケートの評価が上がっているが、実際の成績はどうなっているか。            &lt;回答&gt;            授業は落ち着いた環境の中で行っている。            ○意見…ICT活用について触れられているが、学校での状況に変化がありましたか。            &lt;回答&gt;            グループウェアの活用に向け、生徒・教員が使える環境を整えて施行を実施し、教員の研修も行っている。</p> <p>第3回            &lt;開催日時&gt; 令和3年2月16日締め切りで、書面開催といたしました。            学校経営計画について            [委員の方からの意見等]            ○意見…コロナ禍でも対応できている点については、評価できるが、5-Iについて、今後も増加していくことへの対応が必要。            ○意見…様々な制限化の中、工夫し成果を出している。            以上ご意見を頂いたうえで、学校運営協議会の承認を得た。</p>

## 府立大塚高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の向上	<p>(1) 生徒が「何を学び」「何を理解し」「何ができるようになったのか」を自覚し説明できる力を養う授業。</p> <p>ア 授業改善に向けた取組みの推進</p> <p>イ ICT を活用した授業の推進</p> <p>ウ 生徒の学習意欲の向上への取組み</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングを取り入れた授業改善に関する教員研修を実施する。</li> <li>・1・2 学期に設定している研究授業週間に加え、1年間全ての授業を公開とし、授業改善に繋げる。</li> <li>・教員の個別面談を実施し、授業アンケート結果の独自分析を行い、効果的にフィードバックする。</li> <li>・習熟度別展開授業や TT 授業などにより、個々の生徒に応じた学力の向上を図る。</li> <li>・年間行事の精査を行い授業時間の増加に努める。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器の整備に努めるとともに、機器を活用した研究授業を実施し、教員間の情報共有を図り、生徒の興味・関心を高める授業に繋げる。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始業前学習の充実や成績不振者を対象にした集中講座を実施し、生徒の基礎学力の定着を図る。</li> <li>・自習室などの積極的な活用を促し、自学自習の習慣を確立させる</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員向け学校教育自己診断「参加体験型の学習などの指導方法の工夫・改善」の肯定率 75% (R1:72.7%)</li> <li>・教員相互の授業見学を行い、相互の観察結果をもとに、自己研鑽の材料とする。</li> <li>・授業チェックシートを作成、配布。授業力向上の共通認識を図る。</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく、楽しい」の肯定率 45% (R1:41.2%)</li> <li>・授業アンケートの全項目(9 項目)の平均肯定率 83% (R1:82.0%)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員向け学校教育自己診断「ICT を活用した授業」の肯定率 73% (R1:69.1%)</li> <li>・授業アンケート「授業の内容に興味・関を持つことができた」の肯定率 84% (R1:82.0%)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始業前学習、定期考査前講習、長期休暇中の補習の継続実施。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の実践触れ、スキルアップを当初の目標としていたが、コロナの影響もあり、研修も十分でなく改善が難しかった。65.3% (一)</li> <li>・授業観察記録提出件数 56 件 コロナ禍で、授業開始時期や内容の変更のため、計画通りに実施できなかった。授業見学の重要性を踏まえ継続。(一)</li> <li>・十分な周知ができぬまま始まった。チェックシートの意識が十分でない(△)</li> <li>・一応の目標は達成できた。次年度も目標を上方修正して取り組む。 肯定率 45.2% (○)</li> <li>・今後も授業力向上をめざし、研鑽していく。 肯定率 83.3% (○)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの休業措置の影響か、カリキュラムに余裕がなく十分な準備の時間も取れなかった。ICT 環境の整備が課題 57.4% (△)</li> <li>・普通科と体育科の差が依然としてあり、目標は達成できなかった。しかしコロナ禍であっても工夫することで一定の成果が認められる。82.7% (○)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は特に生徒のニーズが多い (◎)</li> </ul>
2 志や夢のはぐくみ	<p>(1) 夢の実現に向けた進路指導の推進</p> <p>ア ガイダンス機能の充実</p> <p>イ 進学講習の推進</p> <p>ウ キャリア教育の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとに進路 HR、進路分野別説明会などを実施し、生徒自らの意志で進路を選択できるような確かな情報提供を図る</li> <li>・1 年生を対象とした大学見学会を実施する。</li> <li>・保護者対象に奨学金説明会などを開催し、進路情報の提供に努める。</li> <li>・進路指導室の充実を図り、相談や資料閲覧など生徒の利用を一層促進する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後講習や休業中の集中講習などの各種発展講習を計画的に実施し、進学希望者を支援する。</li> <li>・休業中に学校外の施設において勉強合宿を実施し、学力の向上とともに、進路に対するモチベーションを高める。</li> <li>・分掌、教科を横断した総括する係を新設し、各種講習を効果的に実施する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業開拓や面接指導の実施など、就職の希望者の状況に応じた指導を行うとともに、公務員試験に向けた講習を実施し、進路実現を図る。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとに保護者対象の進路説明会や1・2 年生対象の大学、短大、専門学校等の講師びよる進路分野別説明会の実施。</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断「進路について必要な情報を提供してくれる」の肯定率 80% (R1:77.4%)</li> <li>・卒業生アンケートの「進路指導室利用」の肯定率 70% (R1:57.9%)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝、放課後講習や夏・冬休み集中講習、センター試験前の直前講習などの実施</li> <li>・2・3 年生を対象とした長期休業中に行う大学での勉強合宿の実施。</li> <li>・大学(四年生、短期)進学率 65%以上 (R1:59.7%)</li> <li>・センター入試受験者率 15% (R1:12%)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定率 100%維持</li> <li>・警察、消防、自衛隊等の公務員試験合格者数の増加 (R1:3名)</li> <li>・卒業生アンケート「第1希望をかなえることができた」の肯定率 90% (R1:82.2%)</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部が主体となり、学年と協力し充実した取組みはできた。教員の対応、生徒の反応ともに良いと講師からもお褒めの言葉を頂いた。(◎)</li> <li>・進路マップを作成し、一定の成果が表れている。次年度さらに満足度を向上させる。79.4% (○)</li> <li>・卒業生アンケート「進路指導室利用」の肯定率 70.8%であり、目標に達した。(○)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種講習を計画通り実施した。(○)</li> <li>・勉強合宿はコロナ禍により中止(一)</li> <li>・大学進学率 59.2%で、目標に達しなかった。少なからずコロナ禍での家庭の経済状況も影響があったのではないかと考える(△)</li> <li>・共通テスト受験者率 4.4%で目標に届は届かなかった。コロナ禍もあり、早期に進路先を確定したい生徒が多かった。「行ける」でなく「行きたい」大学に進学できるよう、取組みを推進する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校斡旋の就職内定率 100% (○)。</li> <li>・警察、消防等の公務員合格者は5名。僅かだが増加した。次年度に判定される警察希望者を除く (○)</li> <li>・卒業生アンケート「第一希望…」の肯定率は 91.0%で達成できた。(○)</li> </ul>

<p>3 豊かな心と社会性の育成</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と教育相談体制の充実 ア 時間厳守・挨拶、ルールやマナーの遵守できる学校 イ 交通安全や薬物乱用防止に向けた規範意識の醸成 ウ 個に応じた支援体制の充実</p> <p>(2) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上 ア 部活動活性化へ向けた取り組みの推進 イ 学校行事の充実</p> <p>(3) 生命の尊さに気づかせ自他を認める態度や人格の育成 ア 総合的な人権教育の推進 イ 災害時に自らの命を守る行動ができるよう安全指導の徹底</p>	<p>(1) ア ・早朝立ち番指導（挨拶と自転車指導、遅刻指導）を継続実施する。 ・遅刻の多い生徒に対し、「振り返りシート」などを活用し、丁寧な個別指導を実施する。 ・「教員自らが先に生徒へ挨拶を」を励行する。 イ ・交通安全教室、薬物乱用防止教室の実施や科目「保健」の学習など、教育活動全体で機会を捉えて、生徒への啓発に積極的に取り組む。 ウ ・教員研修の充実を図り、教員の意識を高め日頃からカウンセリングマインドを持ち生徒に接する。  ・ケース会議を効果的に運用し、生徒支援に努める。 ・家庭との緊密な連携を図り、生徒の状況の把握に努め、課題の早期発見をめざす。 ・教育相談室の有効活用を促進する。 (2) ア ・クラブ紹介の充実や新入生全員参加のクラブ見学の複数回の設定など体験入部の方法を改善し、普通科生徒の部活動入部を促進する。 ・大塚祭等において文化部の活動を発表する機会を増やす。 イ ・大塚祭体育の部の取り組みを継続するとともに、文化の部の充実・活性化を検討する。  ・普通科生徒にとって一層魅力ある学校づくりを推進する。 (3) ア ・「人権教育推進計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。 ・教員対象の研修会を実施し、生徒に寄り添い人権に配慮した生徒指導、部活動指導などに努める。 イ ・日常的に安全教育・指導に努め、災害時の避難行動について理解できるよう、様々な事態を想定した実践的な避難訓練を行い、生徒の安全に関する、意識の向上を図る。</p>	<p>(1) ア ・教務遅刻数 700 件以下 (R1 : 673 件) ・生徒向け学校教育自己診断「先生は言葉遣いなどについて指導してくれる」の肯定率 80% (R1 : 79.0%) イ ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 70%(R1 : 68.6%) ウ ・生徒向け学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 58% (R1 : 56.3%) ・積極的な「ケース会議」の開催 ・懇談週間等、様々な機会における保護者との三者面談の実施率 100% (2) ア ・普通科の部活動入部率 68% (R1 : 66.3%) 文化部加入率 10% (R1 : 8.3%) イ ・生徒向け学校教育自己診断「大塚祭等、学校行事は工夫されている」の肯定率 60% (R1 : 57.0%) ・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率 体育科 83%、普通科 70% (R1 : 体育科 81.8% 普通科 68.4%) (3) ア ・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率 75% (R1 : 73.1%) ・卒業生アンケート「人権問題に関心をもっていますか。」の肯定率を 85% (R1 : 76.9%) イ ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率 63% (R1 : 61.1%)</p>	<p>(1) ア ・教務遅刻総数 479 件 日々の立ち番遅刻指導での粘り強い説諭の成果で大幅に減少したと考える。(◎) ・生徒に指導するだけでなく、教員自ら丁寧な言葉使いを実践 81.6% (○)  ・人権 HR 活動や集会などで、常に啓発し、考える機会を設けている。 72.2% (○)  ・今年度、教育相談機能を強化した。次年度に向けてさらに工夫して取り組んでいく 57.8% (○)  ・対象となった事案は 2 件 ・今年度、教育相談室にエアコンを設置。(◎) ・保護者との三者懇談は、100%実施。(○) (2) ア ・普通科加入率 71.4% (◎) 文化部加入率 8.6% 学校全体では 80.7%の加入率 イ ・コロナ禍の影響で、どちらかを中止している学校が多い中、両方とも実施できたことが大きい 67.1% (◎) ・普通科、体育科ともにポイントアップ。教員の生徒に寄り添い、支援していく姿勢がより意識ついている。 76.2% (○) 普通科 71.7% 体育科 85.6% (3) ア ・今年度、人権についての大きな取り組みは、コロナ禍でアンケート実施時期以降となったためやや低い結果となった。 72.0% (一) ・アンケート結果 79.3% コロナ禍で計画通りの実施ができず目標達成には至らなかったが昨年度の数値は上回った (○) イ ・密を避け、実際の訓練が 12 月の実施となったため、生徒に周知できていないため自己診断に反映できていない。 60.2% (△)</p>
--------------------------	--	--	---	--

## 府立大塚高等学校

<p>4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進</p>	<p>(1) 競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組みの強化 ア 競技力向上と効果的な指導方法の研究  イ 地域とのスポーツ交流と地域貢献の推進</p> <p>(2) 魅力ある学校づくりの推進  ア 学校広報の充実</p>	<p>(1) ア ・トップアスリートを招聘した「スポーツ講演会」や運動部活動における「スーパーインストラクター招聘事業」などを実施し、運動部部員の意識を高める。 ・高校スポーツ界の夢の舞台である全国高校総体への出場をめざし、さらなる競技力の向上に努める。 ・「運動部活動ガイドライン」を踏まえ、週1日の活動休止日の設定や効果的な活動時間、練習方法を研究する。  イ ・本校の教育資源を活用し、地元小学生を対象した「ふれあい大塚スポーツ教室」を実施し、スポーツ交流を推進する。 ・中学校運動部を招いた「大塚CUP」を実施し、スポーツ拠点校としての交流を推進する。 ・文化部の老人福祉施設などの訪問や自治会を中心とした地元中学校との連携及び市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加し、地域交流・貢献に努める。</p> <p>(2) ア ・リニューアルしたHPの効果的な運用を図るため、学年、部活動等ごとにデータ提供を行う担当者を位置付け、中学生等への情報発信に努めるとともに、在校生保護者の安心・信頼感を高める。  ・本校で実施する学校説明会(年間4回実施)の充実を図る。  ・全教員による中学校訪問を実施し、本校の教育活動の周知を図る。</p>	<p>(1) ア ・全校生徒対象の「スポーツ講演会」及び運動部活動生徒対象の「スーパーインストラクター招聘事業」の継続実施 (R1:11回)  ・全国高校総体など全国大会への複数クラブの出場 (R1:男子バレー、陸上、男子ソフトテニス)  イ ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目と参加者の増加 (R1:6種目82名) ・地域中学校の運動部を招待した大会「大塚CUP」の開催 (R1:1大会:8校参加) ・文化部の保育園や老人福祉施設等への交流事業を促進する。(R1:4回)  ・生徒向け学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」の肯定率 40% (R1:38.2%)</p> <p>(2) ア ・保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供の努力」の肯定率 72% (R1:68.9%)  ・学校説明会「参加者アンケート」の肯定率 95%以上  ・中学校訪問数 150校以上 (R1:132校)</p>	<p>(1) ア ・コロナ禍により「スポーツ講演会」は中止。「スーパーインストラクター招聘事業」は3月に実施予定のものを含め12回。(○)  ・全国大会の中止が相次ぎ、出場し出来たのは種目別で実施された陸上競技部のみ。コロナの休業措置の日に大会が実施され棄権せざるを得なくなった。(一)  イ ・今年度はコロナ禍により中止した。(一)  ・今年度はコロナ禍により中止した。(一)  ・今年度はコロナ禍により中止した。(一)  ・各運動部の合同練習等の日常的な交流により達成。各部が個別に積極的に取り組んだ。44.4% (◎)</p> <p>(2) ア ・学校での保護者向けの取組みが、コロナ禍で2学期後半まで行えなかったことが大きく影響している。68.3% (△)  ・令和3年1月実施分は、学校休業措置期間となったため中止とした。実勢出来た分については肯定率 98% (○)  ・予定通り実施できた。しかし、コロナの影響で郵送希望の中学校もある。(◎)</p>
<p>5 次代を担う人材の育成</p>	<p>ア 人材の育成  イ 労働安全衛生管理体制の充実</p>	<p>ア ・初任者も含め、2年目から4年目までの教員を対象とした「フレッシュマンセミナー」を継続実施する。  イ ・業務の効率化とともに、安全衛生委員会の活性化を図り、教職員の健康管理体制を充実させる。 ・部活動顧問間の業務分担を明確にし、主顧問の負担軽減を行う。</p>	<p>ア ・「フレッシュマン・セミナー」の開催5回以上 (R1:4回 1月末)  イ ・「時間外勤務月80時間以上」の延べ人数の減少をめざす。</p>	<p>ア ・フレッシュマンセミナーを3回実施した。コロナ禍で学校の年間行事予定も大幅に変更し、準備期間や実施日に大きく影響した (△)  イ ・今年度はコロナ禍で数値はわずかではあるが減少した。部活動指導が盛んな本校で達成は困難である。幅広くすべての教員がかかわることで、極端な負担の偏りを軽減していくよう今後も努める。(一)</p>